

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|
| 公 | 立 | 大 | 学 | 法 | 人 | | | | |
| | | 公 | 立 | 小 | 松 | 大 | 学 | | |

令和元年度
経営状況報告書

令和2年8月



令和元年度 決算

事業実績の概要

教育・研究について

■ 教育・学生支援

グループ討議や演習などのアクティブ・ラーニングや課題解決型学習を積極的に取り入れるとともに、学生の授業評価アンケートなどを基に授業のレベルアップに取り組み、授業満足度は5段階評価で平均4.15と高評価を得た。

学生支援では、新入生を対象に「きずな合宿」を開催し、学生間および学生・教員間の交流促進を図った。また、担当教員との定期的な面談や、公認心理師（臨床心理士）による学生相談などにより、学修面・生活面の把握とサポートに努めた。

サークル登録は35団体となり、公認基準の策定や代表者会議の開催などを通して適切な活動を支援した。キャリアサポートセンターでは、専門スタッフによるキャリアカウンセリングや企業見学会を開催し、キャリア支援体制を強化した。



きずな合宿



授業風景（看護学科）

■ 研究

新たな制度や予算を設け、特色ある研究や地域の問題解決に向けた研究の推進、学科単位での研究力向上を図り、研究支援を強化した。科学研究費補助金等の外部資金獲得に向け、講習会などにより教員のスキルアップを図り、科研費の採択実績は28件（新規9件、継続19件）、その他助成金の採択実績も14件に上り、順調に推移している。また、「市民公開フォーラム」や「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」の開催、産学官連携イベントへの出展などにより、研究力の発信にも取り組んだ。



産学官連携イベントへの出展



市民公開フォーラム

■ 国際交流

海外大学との交流協定を新規に8件締結し、交換留学や海外語学研修のほか、学生・社会人の合同参加による「産学合同シリコンバレー研修」開催など、相互交流の促進によって、学生の国際感覚の醸成に努めた。あわせて、学生の海外派遣にあたっては、危機管理サポート加入のほか、保健管理センターによる事前研修の実施など、危機管理体制を強化した。



産学合同シリコンバレー研修

■ 地域貢献について

小松市や地域協議会と連携した地域課題解決の取組や「KUTANism」などのプロジェクトに教員と学生が参加するなど、地域に根差した活動を積極的に展開した。大学祭「第2回青松祭」は、学生実行委員会が「スマイル木場潟」などのイベントと連携した事前PRを展開し、市内の事業所等から多くの協賛を得て開催した。また、「こまつ市民大学」では多くの教員が講師を務め、ものづくりや健康、語学、国際情勢など教員の研究分野に沿った講座を多数開講し、市民の学びをサポートした。



第2回 青松祭

■ 財務

志願者の獲得に向けては、大学進学相談会の参加や高校訪問の範囲を東海地域へも拡大し、積極的なPRを展開した。令和2年度入試においては、入学定員240人に対し、1,329人の志願者があった。定員を超える入学数となったことによる授業料や入学金等の収入増や、適切な大学運営に努めたことによる業務費の支出減により、小松短期大学からの承継資金活用は、昨年度に引き続き、当初予算の2分の1（約1億1千万円の減）となった。

■ その他

粟津・末広キャンパスでいずれも施設・設備の整備が計画通り完了し、学部学科ごとの研究機能の集約により、教育・研究環境の充実につながった。また、学生を含めた防災訓練実施や安否確認システムの本格運用などにより防災の取り組みを推進した。

新型コロナウイルス感染症については、危機管理委員会を開催し、学生・教職員の健康・安全を第一に、全学体制で感染防止の対策にあたった。

貸借対照表

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

| 科目 | 金額 | [単位:円] |
|-------|--------------|----------------------|
| 資産の部 | I 固定資産 | 2,359,172,966 |
| | 有形固定資産 ※1 | 2,339,823,085 |
| | 土地 | 315,290,000 |
| | 建物 | 1,482,774,786 |
| | 工具器具備品 | 271,770,716 |
| | 図書 | 208,084,181 |
| | その他有形固定資産 ※2 | 61,903,402 |
| | 無形固定資産 | 19,299,881 |
| | 投資その他の資産 | 50,000 |
| | II 流動資産 | 834,549,950 |
| | 現金及び預金 | 466,796,147 |
| | 未収入金及び前払費用 | 367,753,803 |
| | 資産合計 | 3,193,722,916 |
| 負債の部 | I 固定負債 | 1,326,202,284 |
| | 長期寄附金債務 ※3 | 499,526,473 |
| | 長期リース債務 | 464,080,820 |
| | その他固定負債 ※4 | 362,594,991 |
| | II 流動負債 | 318,566,865 |
| | 寄附金債務 ※5 | 31,486,493 |
| | 未払金等 | 186,242,134 |
| | その他流動負債 ※6 | 100,838,238 |
| | 負債合計 | 1,644,769,149 |
| 純資産の部 | I 資本金 ※7 | 1,264,350,000 |
| | II 資本剰余金 ※8 | 284,603,767 |
| | III 利益剰余金 | 0 |
| | 純資産合計 | 1,548,953,767 |

用語説明

【資産の部】

※1 [有形固定資産]
公立大学法人が教育・研究事業を永続的に実施するために必要とする土地、建物等の施設や設備。

※2 [その他有形固定資産]
構築物、美術品・収蔵品、車両運搬具等。

【負債の部】

※3 [長期寄附金債務]
寄附金の未活用相当額。
(学校法人小松短期大学からの承継資金を含む。)

※4 [その他固定負債]
資産見返負債、退職給付引当金。

※5 [寄附金債務]
一年以内に活用する予定の寄附金。

※6 [その他流動負債]
前受金、リース債務、預り金。

【純資産の部】

※7 [資本金]
市からの出資相当額。

※8 [資本剰余金]
市からの施設整備費補助金により取得した資産(建物等)及び美術品等の非償却資産。

- 資産 31億9千万円 (前期比 3.1億円増)
主な増加要因 ▶ 建物：栗津キャンパス2期工事
工具器具備品：栗津、末広キャンパスの研究設備、備品の整備
未収入金：市からの施設整備費補助金
- 負債 16億4千万円 (前期比 8千万円増)
主な増加要因 ▶ 未払金：栗津キャンパス2期工事関連
- 純資産 15億5千万円 (前期比 2.3億円増)
主な増加要因 ▶ 資本剰余金：市からの施設整備費補助金により取得した固定資産

損益計算書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

| 科目 | 金額 | 用語説明 |
|-------------|----------------------|--|
| 費用の部 | | 【費用の部】 ※1 [教育研究経費] 教育、研究に要した経費。 ※2 [受託研究等費] 受託研究、共同研究に要した経費。 ※3 [人件費] 役員及び教職員の給与、賞与、法定福利等の経費。 ※4 [財務費用] リース資産にかかる支払利息。 【収益の部】 ※5 [授業料等収益] 授業料、入学金、検定料収益の合計額。 ※6 [寄附金収益] 寄附金の活用額。(学校法人小松短期大学からの承継資金を含む。) ※7 [施設費収益] 施設整備費補助金のうち、固定資産以外に充当した額。 ※8 [その他経常収益] 資産見返負債戻入(建物などの償却資産の減価償却を行う都度、減価償却額と同額を資産見返負債から資産見返負債戻入に振り替える調整科目)、受取利息。 |
| I 経常費用 | 1,611,027,771 | |
| 業務費 | 1,389,011,691 | |
| 教育研究経費 ※1 | 446,044,012 | |
| 受託研究等費 ※2 | 16,353,645 | |
| 人件費 ※3 | 926,614,034 | |
| 一般管理費 | 221,110,032 | |
| 財務費用 ※4 | 906,048 | |
| II 臨時損失 | 0 | |
| 費用合計 | 1,611,027,771 | |
| 収益の部 | | |
| I 経常収益 | 1,611,027,771 | |
| 運営費交付金収益 | 907,085,745 | |
| 授業料等収益 ※5 | 410,444,950 | |
| 受託研究等収益 | 16,353,645 | |
| 寄附金収益 ※6 | 104,371,106 | |
| 施設費収益 ※7 | 102,558,330 | |
| 補助金等収益 | 1,570,000 | |
| 雑益 | 32,372,450 | |
| その他経常収益 ※8 | 36,271,545 | |
| II 臨時利益 | 0 | |
| 収益合計 | 1,611,027,771 | |
| 当期純利益 | 0 | |

- 経常費用 16 億 1 千万円 (前期比 2.3 億円増)
 主な増加要因 ▶ 教育研究経費：学生数・教員数の増加
 人件費：教職員の採用
 構成比率 (主な科目) ▶ 人件費 57% 教育研究経費 28% 一般管理費 14%
- 経常収益 16 億 1 千万円 (前期比 2.3 億円増)
 主な増加要因 ▶ 運営費交付金収益・授業料等収益：学生数の増加
 構成比率 (主な科目) ▶ 運営費交付金収益 56% 授業料等収益 26%

公立大学法人の本務は中期目標、中期計画に示す教育・研究事業であり、会計制度は、大学の活動に要した経費を費用、活動のための財源を収益と位置づけ、損益均衡になる仕組みが取られている。開学 2 年目である公立大学法人公立小松大学では、学校法人小松短期大学からの承継資金を財源として活用することにより、損益を均衡させている。

令和2年度事業予定

事業計画の概要

教育では、地域の企業や団体等との連携協力を一層強化し、3年次の地域実習やインターンシップなどを実施する。また、国の高等教育修学支援制度に伴う授業料免除及び奨学金給付について、学生に適切に情報提供を行い対応する。就職支援においては、学生の就職意欲や職業観の醸成に加え、業界研究セミナーや各種支援講座、就職活動ガイダンスなど、学年進行に応じた具体的な対策に取り組む。

入学者選抜では、志願者増を目指し、オープンキャンパスや教職員による高校訪問、大学見学会・説明会などを継続的に展開する。また、新たに導入される大学入学共通テストへの対応を進め、着実に実施する。

社会人教育では、市民が学びに触れ、自らを豊かにする場としての機能を充実させるため、こまつ市民大学や社会人教育プログラム等の更なる充実を図る。

研究では、引き続き企業等との共同研究及び受託研究、科学技術研究助成の申請などを推進する。また、学内においては、複合・融合領域の研究促進に向けた取り組みを進める。

国際交流では、グローバル人材養成のため、海外大学等との交流協定の締結を拡大するとともに、海外研修の実施や交換留学を積極的に行う。また、地域の多文化理解や国際化の推進を支援する。

地域連携では、市民向けのシンポジウムやフォーラムの開催などにより、大学がもつ知的資源を社会へ還元し、大学の研究力を通じた地域課題の解決に取り組む。引き続き、学生の地域行事へ積極的な参加を促進するほか、アメリカシリコンバレーとの連携事業を実施する。

業務運営では、業務の質と量、内容を精査し、適切な人員配置により、3キャンパスでの効率的・円滑な業務実施に取り組む。また、研修やジョブローテーションを実施し、職員の能力向上を図る。

新型コロナウイルス感染症への対応では、引き続き、学生及び教職員の健康と安全を第一に徹底した感染防止対策に全学体制で取り組みながら、教育研究活動を推進する。

収支計画

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

| 科目 | 金額 | [単位:百万円] |
|------|-------------|---------------|
| 費用の部 | I 経常費用 | 1, 920 |
| | 業務費 | 1, 472 |
| | 教育研究経費 | 342 |
| | 受託研究等費 | 16 |
| | 人件費 | 1, 114 |
| | 一般管理費 | 368 |
| | 財務費用 | 0 |
| | 雑損 | 0 |
| | 減価償却費 | 80 |
| | II 臨時損失 | 0 |
| | 費用合計 | 1, 920 |
| 収益の部 | I 経常収益 | 1, 920 |
| | 運営費交付金収益 | 1, 171 |
| | 授業料等収益 | 597 |
| | 受託研究等収益 | 18 |
| | 寄附金収益 | 26 |
| | 財務収益 | 0 |
| | 雑益 | 28 |
| | 資産見返負債戻入 | 80 |
| | II 臨時利益 | 0 |
| | 収益合計 | 1, 920 |
| | 当期純利益 | 0 |